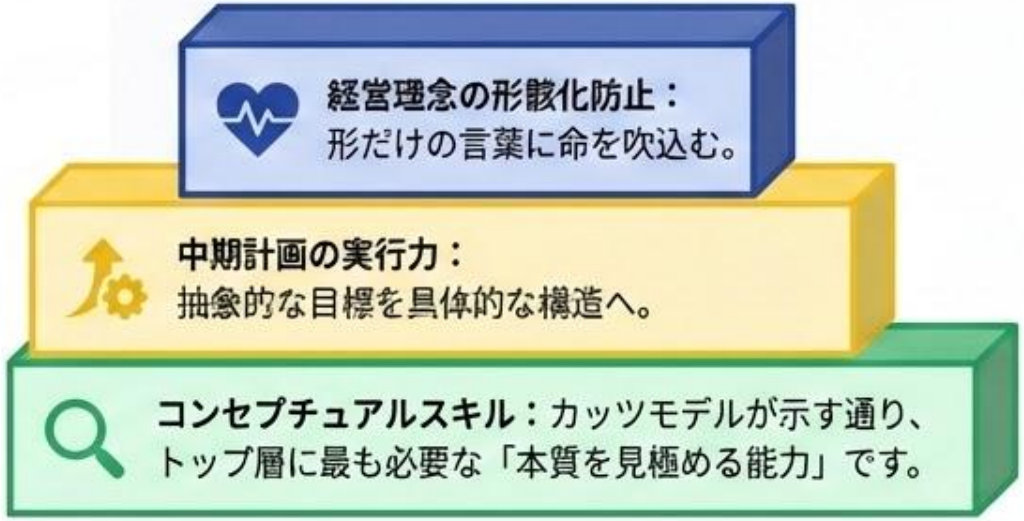
「砂」の対話から「レンガ」の思考へ

日々の議論が積み上がらない原因は、言葉を「砂」の状態で扱っているからです。
概念思考は、言葉を「構造（レンガ）」として捉え直す力です。

「砂」の状態

「構造（レンガ）」として捉え直す



概念思考：経営者のための「知の基盤」

「概念化のプロセス:対話を構造化する」

言葉を分解する

一つの言葉を、複数の要素からなる「構造」として捉え直します。これにより、多角的な議論が可能になります。

対立を一般化へ

意見の「違い」を乗り越えるべき壁ではなく、新たな発見のための「興味の対象」へと転換させます。

生産的な議論

概念（レンガ）を共有することで、初めて組織としての堅牢な知的構造物を構築できます。

🔒 定義：共通の合意（静的なルール）

🌱 概念：経験や思考の違いを共有（動的な発展）

「思考のギアを上げ、独自の哲学を築く」

一生モノの「思考の自転車」

概念思考は一度感覚を掴めば忘れないスキルです。思考のギアを上げることで、推進力を最大化します。

- **Gear 1:** 物事を概念で捉える（基本）
- **Gear 2:** 概念の関係を考察する（専門知）
- **Gear 3:** 純粋な概念を考察する（哲学書）
- **Gear 4:** 独自の哲学を構築し、展開する

知識社会では、すべての階層にこの**コンセプチュアルスキル**が求められています。